

地域貢献に役立つ自立的・自発的思考の育みを目指した授業実践

教育実践総合センター・信原孝司

1. 授業の概要

本授業では、地域貢献に役立つ人材としての臨床心理士の養成を踏まえて、臨床心理面接の専門性について、特に精神分析的心理療法の側面から学び、理解を深めることを目的としている。また授業の到達目標としては、心理臨床の専門性に関する知識の習得と、今後の実習における臨床実践に備えることである。この科目は、臨床心理士を目指す大学院学生（学校臨床心理専攻臨床心理学コース）の必修科目であり、履修生は臨床心理士資格取得を目指している。

授業では、初回に授業内容と進行予定を（シラバスを下敷きとして）提示している。これは、履修生が前期の見通しを持って予習に取り組み、関連した項目の復習に取り掛かりやすくなることを意図している（以下は今年度の講義内容）。

- (1) オリエンテーション
- (2) 精神分析について
- (3) 臨床心理面接での問題理解と面接構造
- (4) (3)の続き、臨床心理面接における技法
- (5) (4)の続き
- (6) 映画を通して臨床心理面接を考える 1
- (7) ディスカッション
- (8) 心理療法の初期面接
- (9) 心理療法の基本技法 - 質問・明確化・直面化・解釈 -
- (10) 面接中期 - 転移・逆転移
- (11) 面接終期 - 抵抗・気付き・ワーキングスルー
- (12) 映画を通して臨床心理面接を考える 2
- (13) ディスカッション
- (14) 心理臨床トピックス
- (15) 前期振り返り・レポート提出

2. アンケート結果

履修生が提出したレポート中の授業評価を中心に以下に振り返った。コメントでは、授業内容や授業方法については支持的な評価が多かった。また、臨床実践を考える映画の視聴とディスカッションの構成は支持が多かったので、今後もこの授業形態を継続する予定である。

昨年度までには質疑やディスカッションの方法や時間配分に課題があった。今回は小グルー

プによる短時間のディスカッション形式を意識的に取り入れて好評を得たが、時間配分が不十分な時もあり、今後の継続的な課題となった。

3. 学生の自立的・自発的思考の育みを意図

授業では、履修生の自立的・自発的思考の育みを意図して、担当者と学生とのやり取りが出来るだけ双方向となるように意識した。具体的には、毎回の授業の最後には、学生からの質問時間を設け、担当者が全て答えてしまうのではなく、履修生達とディスカッションし、曖昧な部分には履修生の自発的な発言を促すよう配慮した。

4. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

臨床心理面接の対象であるクライアントは県内地域の住民であり、相談内容には地域特性が感じられるものも多くある。また、守秘義務に関わる内容も多く、授業として取り上げる難しさを感じている（そのため、補足的に実習の時間にも取り上げるようにも配慮している）。

5. 総括

授業では、履修生の自立的・自発的思考の育みを意図する中で、ディスカッションが長引く場合もあったが、途中で授業予定を柔軟に組み立て直す配慮をした。課題としては、ディスカッションから派生するテーマを次回授業で取り上げたり、履修生に自学実習させる工夫が出来れば、より深い理解に繋がった可能性がある。

なお、本授業の最終レポートの課題は次の3点。(a)前期授業から臨床心理面接について一番学んだと思う点にタイトルを付け、その内容を考察せよ、(b)授業で学んだことを踏まえて映画をあなた独自の臨床心理学的視点から考察せよ、(c)授業評価として前期授業の実施内容・方法についての感想を自由に書いて下さい。

(a)(b)では必ず引用文献を用いるよう指示して、自立的・自発的な思考を文章化させ、(c)では履修生の声を来年度に反映させる意図があったが、評価に関わるレポートでは伝え難い部分があったかも知れないとも感じている((c)は評価外を示す等の工夫も検討したい)。